

ヒトエグサ養殖支援

南薩地域振興局林務水産課

【背景・目的】

本県において、ヒトエグサ養殖は長島町や鹿児島市喜入地区、奄美地区等で行われている。南薩地区においては最近では養殖されていなかったが、平成25年度から指宿市の底びき網業者が禁漁期等で時間的に余裕のある冬期に収入が見込めるとして、ヒトエグサ養殖を開始したので支援を行った。

【普及の内容・特徴】

1 養殖技術指導

既存の文献や研修会、他地区の養殖業者から得た基本的な養殖技術の知見についての情報提供や必要に応じて技術指導を行った。

種付けについては霧島市隼人町のヒトエグサ養殖業者に依頼し、11月に養殖を開始。

網を張る位置や高さについては喜入地区のヒトエグサ養殖業者と協議しながら決定した。

1月に病気が発生し、県水産技術開発センターに確認を依頼したところ、どたぐされ病とのことであった。ケイ藻が繁茂し光合成を行えず栄養不足に陥ったと考えられたため、網の高さを上げ干出時間を長くすることによりケイ藻の減少を図ったところ、病気は見られなくなった。養殖時期の終盤には生長が遅くなることが確認された。この時期には他の雑藻類の繁茂は少ないため、網の高さを下げ、海水に浸かる時間を長くすることにより生長の促進を図った。

2 販売促進

鹿児島地区漁業士会や南薩おさかな海道ネットワーク協議会の販売会などイベントを積極的に活用し販売を行った。その際、アオサ汁や天ぷらを作り試食をしてもらったり、レシピを配布して販売を行うなど販売促進と認知度向上に努めた。

【成果・活用】

養殖初年度であったが、どたぐされ病の発生や魚類による食害が一部見られたものの比較的順調に1シーズンを終えることができた。

イベントでの販売においては、試食の実施によりアオサが持つ風味や味が消費者に伝わり、販売個数の増加が見られた。また、養殖状況の写真やレシピを配布するなど情報を発信しながら販売することにより認知度向上が図られた。

【その他】

今後の課題として、今期は収穫したヒトエグサを保管する場所がなく、在庫を安値で出荷せざるを得なかったため、冷凍庫の整備など在庫を保管する場所の確保が必要である。

また、収益を上げていくためには、養殖規模の拡大、天然採苗によるコスト削減、より高値で取引してくれる業者の販路開拓などを行っていく必要がある。



養殖状況



養殖状況



どたぐされ病



摘み取り機



洗浄機



選別状況



出荷製品



配付レシピ